



おがさわら

議会だより

第 119 号

平成 28 年 2 月 25 日発行 発行／小笠原村議会 編集／議会だより編集委員会 電話 04998-2-3118



ロードレース大会のようす

平成 27 年第 4 回村議会定例会

第 4 回定例会（議案審議）	2
一般質問	4
委員会報告	8
出張レポート	10
編集後記	12



議長出張

9月28日

「小笠原を応援する会」設立懇談会出席。(村長同行)

10月15～16日

都町村議会議長会先進町村視察。(石川県川北町)

10月19～22日

東京都に「都道行文線未整備区間の整備再開を求める意見書」、
「母島沖港の静穏度向上のための防波堤整備に関する要望書」提出。
都議会正副議長、山口公明党代表、国交省、国会議員へ挨拶。
海上保安庁長官に海上保安体制の充実・強化を要望。
都知事へ航空路の早期開設、都道行文線未整備区間の整備再開、
母島沖港防波堤整備等要望。(村長・議員1名同行)

10月22～23日

友好都市「南アルプス市」視察。(議員7名同行)

→詳しくは、議員レポートへ



第4回定例会(12月9日～10日)

第4回定例会

条例

- 国の法律が変わったので、改めて農業委員会の定数(8名)について条例で決めました。

補正予算

一般会計補正予算

- 光ケーブル事業費を増額しました。
- 村議会議員選挙や村長選挙が終わったので、残った資金を減額しました。
- シロアリ対策事業を増額しました。

議員派遣

- 2月に議員8名が友好町村八丈町を訪問し、施設などの視察を行う予定です。

詳しくは、会議録をご覧ください。

地球温暖化対策、扇浦跡地は清水議員 世界遺産として積極的に取り組み規範となる必要がある。村長所信を伺う。

民間住宅等にも太陽光発電が設置できる仕組みをつくれな

村長 村の人口規模での努力で減らせる排出量は小さいが、当事者意識を持って意識を高めていくのが重要だ。太陽光発電を公共施設へ導入し、化石燃料使用量も減らしたい。

環境課長 民間も含めた導入は、東電が実施する系統連系の制限値算出の試験結果を踏まえ検討したい。国や都の補



清水 良一議員

助金情報も押さえない。電気は平成21年度より6〜7%減だが、ガス、ガソリンは把握が進んでいない。村民へ普及啓発には取り組みたい。

清水議員 地下調整池を設ける扇浦浄水場跡地は地上部の園地をどう整備していくのか。

村長 文化財も含めた周辺域を一つの公園区域として整備すべく検討を進めたい。

企画政策室長 振興開発事業として平成30年度竣工予定の調整池に合わせ、園地全体を設計し翌年着工を考えている。

返還50周年に世界に発信を清水議員 契機として近隣諸国とつき合いを深めていって

は、そこでユネスコスクールの活動に注目したいがどうか。

村長 機会を捉え、周辺との交流も含め小笠原の歴史・文化やすばらしさを発信できる事業を村民とともに考え実施できればと考えている。

教育課長 二小が加盟し持続可能な開発のための教育活動で特別賞も受賞した。今後も教育活動を実践していく。



学校での障害児教育対応は安藤議員 どのような観点で実施するのか。支援員や専門職教員の体制は、母島小学校の特別学級は開放感がないが。

教育長 従来、教育ニーズに的確にこたえる指導が提供できるよう対応を進めてきた。来年学齢に達する障害児童に対し、小笠原小、母島小で特別支援学級を開設する。

教育課長 支援員配置は小笠原小で行うが母島小は予定していない。状況に応じ補正なり配置も考える。母島小は空き教室がなく既存教室を仕切って学級を設置する。普段は間仕切りを開放し、必要に応じ仕切ること



安藤 重行 議員

を想定している。

安藤議員 放課後は、学校の教室を使って預かれないのか。地域での子育て支援の観点からはどう捉えているのか。

教育課長 学童保育としては、通常学級も含め考えていない。

村民課長 障害児の放課後支援は個別にお手伝いとして対応していく。現在、保健師や社会福祉協議会、明老会等関係機関と協議している。体制的に専門的な介護は望めないが、村民の有資格者やボランティアなど地域で支援する環境も整えていく必要がある。実際に行っていく中で、状況を見つつ検討を進めたい。

知的障害者の支援について安藤議員 子育て支援の一環としてどう対処していくのか。

村民課長 障害者支援として平成27年から実施している。家族の対応が困難な日、時間帯に村や社会福祉協議会で支援している。試行錯誤しながら進めていく中で、今後、村の将来的な障害者支援計画を進めていきたいと考えている。

一 般 質 問

12月定例会

第 4 回定例会は、6 名の議員から 10 件の一般質問がありました。



都知事との会談について佐々木議員 10月22日の舩添都知事との会談を村長はどう受けとめたか。①航空路、②防災避難道路、③母島・沖港の消波堤の要望について、その後、同席した都の各部署に対応した動きがあったか。

村長 村からは3人で面会した。①は3年後の復帰50周年に方向性打出しをお願いし、②は池田議長が説明し、③は佐々木前議長時代からの説明もあり、各要望について前向きな発言をもらった。硫黄島についても話ができた。

佐々木議員 航空路問題はその後新聞が取沙汰していて、憶測の動きが出るのはまずい。



佐々木幸美 議員

航空連絡協議会を早く再開してほしいが都から問合せはあったか。避難道路はどうか。

企画政策室長 協議会の具体的な連絡はまだ来ていない。

村長 事務方同士で詰めた上の航空連絡協議会での検討がベスなので、早く開いて案を出してもらえようしたい。

副村長 道路は会談直前に建設局長に要望書も提出した。検討が進められているはずだ。

沖港の消波堤の要望は佐々木議員 東側の岸壁を延ばせば当面の安心と津波のおそれも減らせる。港湾局の対応の連絡はまだないのか。

企画政策室長 港湾局の見解は具体的には伝わってきていないが、知事発言は前向きに検討していくとのことだ。行政は、冬の波の状況を確認した上で消波堤等の検討をする。それを取りまとめたら、設計、着工に結びついていく。知事の指示のもと、そういった検討をしているところだと思う。

稲垣 勇 議員



母島への新外来種の侵入を防げないか

稲垣議員 母島にツヤオズアリが侵入したが、侵略的外来種侵入の現状と対策は。

環境課長 網羅的調査は行われていないが、世界自然遺産の科学委員会対策を検討している。ツヤオズアリは母島の集落域に既に広く分布し、保全対象種の生息域やその付近でも生息している。東京都や環境省等が試験的駆除を実施しており、他の生物への環境影響を検証し、今後の対策を検討する。保全対象種の存在する森林や属島への侵入・拡散防止を最優先に、根絶には集落内の対策も必要な

ので、関係機関と協議したい。
産業観光課長 誘引剤と殺虫剤をしみ込ませたテックス板はミカンコミバエが発生、繁殖した場合に設置するが、備蓄が難しい。緊急時には迅速な対応が可能と聞いている。
稲垣議員 ①資材の搬入対策、②移住者等への対策、③条例制定の考えはどうか。
環境課長 ①公共事業では建設資材による外来種の侵入・拡散防止に配慮している。農業用苗木の温浴処理の副作用の検証や、民間での周知徹底が課題だ。②新規の居住者等にも理解、行動してもらうため、普及啓発を強化しつつ関係課などと協議したい。③条例による規制は、産業や村民生活への影響も見きわめ、広く社会的合意も得ながら検討すべきだと思う。
稲垣議員 侵略的外来種の侵入により、世界遺産が危機遺産になる可能性が高いのでは。
村長 専門家の意見等を伺いながら冷静に対処したい。関係行政機関の連携を強くし、必要な対策に取り組む。



一木 重夫 議員



ミカンコミバエの対策は

一木議員 ミカンコミバエが奄美大島に再侵入し、農産物に甚大な被害が出ている。小笠原で仮にミカンコミバエが再侵入した場合、全島の作物が廃棄の対象になる可能性。住民に広く周知する必要。苗木から侵入することもあるので対策が必要。東京都に住民説明会を要請する必要。硫黄島では3年に1回の調査のみ。硫黄島での調査頻度を上げる必要があるのではないか。

産業観光課長 小笠原村として東京都に住民説明会の開催、硫黄島の侵入警戒調査強化を要請し、連携して村民に注意喚起していく。
地域限定通訳案内士制度を
一木議員 おが丸の観光客数は減少傾向だ。今年度は世界遺産登録前と同じ水準。外国人旅行者を有償でガイドするには国家資格の通訳案内士が必要。ガイド中に外国人旅行者が怪我をしたら検挙されたり、賠償保険金が出ない可能性もある。特措法の地域限定通訳案内士制度に取り組むべきではないか。
産業観光課長 特例通訳案内士制度は、エコツーリズム協議会で勉強会を来年度実施できよう検討する。
村長 協議会で勉強会をやる中で、熟度を高めていく。

鯨江 満 議員



父島保育園の津波対策の現状は

鯨江議員 これまで一般質問等で、津波を前提とした災害対策、特に父島保育園の高台移転について取り上げてきたが、移転先のめど立たない本件の現状に対する考えは。
村長 担当課には、津波対策としての各施設の高台移転を含めた土地利用のあり方の検討を指示しており、父島保育園もその一つだが、現状の面積を確保して移転できる土地はない。また、山間部は、法律による自然環境の保護地域が設定されており、土地の造成も思うようにいかない。ライフライン施設や災害弱者が

利用する施設など、ぜひとも高台へ移転をとら思いうが、全てを移転するのは困難だ。父島保育園も現在地で建て替えざるを得ない。その前提で、建物の配置や地面のかさ上げ、後背地の避難路へのアクセス確保など安全、速やかに園児が避難できる方策を検討する。
鯨江議員 人工地盤を用いた保育園周辺の就学前児童教育ゾーンとしての整備や建替えについて伺う。
村長 人工地盤は、小笠原村のように土地事情が厳しく、かつ津波が想定される地域においてこそ一考の価値がある。しかし、保育園の運営管理が支障なくできるか、また土砂災害防止法に基づく警戒区域の指定の可能性を否定できない当該地で人工地盤を前提とした土砂災害対策が可能なのか等、建物の趣旨によって考え方も変わる。子供たちが日常的に活動することや、避難の仕方を考えなければならず、この方法も考え方の一つとしてあるということ念頭に置いて臨みたい。

航空路の報告

・12月7日のFNNニュースについて

問 空港候補地も絞られていないのに、誤解される報道内容だった。村民に現状をアピールすべきではないか。 <杉田委員>

答 自然環境に配慮をし、村民の意見を聞きながら進めてきた姿勢を伝えていくことが大事だと考える。

問 日本自然保護協会が「小笠原は空港建設と世界遺産は両立しない」旨意見を出したが、村長の所見は。 <一木委員長>

答 会として正式なコメントとのことだった。これまでも真剣に自然環境を配慮しながら取り組んできたことが、理解されておらず、残念だ。

・委員の考えは？

- ・対抗措置が必要ではないのか。 <鯉江委員>
- ・事実確認をせず発信するような団体はいるので、しかたがない。

執行部と協議して行動すべき。 <稲垣委員>

- ・村民の悲願を馬鹿にしている。村がこの会員だというが、脱退しても良いのではないか。

<佐々木委員>

- ・議会として日本自然保護協会に何か対策をすることは、必要ない。

<杉田委員>

- ・あの報道だけでコメントを発するのは、現状がわかっていないということだ。村が行ってきたことを知らせることが必要だ。

<池田議長>

- ・報復のようなことをするよりも、まずは現状を村民に伝える事が重要だ。 <清水委員>
- ・事実確認前に意見を公表するような、そういう団体はある。村民に現状を伝えていくことが重要。

<安藤副委員長>

- ・今後、正副委員長、議長と相談をし、改めて報告したい。

<一木委員長>

硫黄島の報告

- ・LCAC 訓練の実施があった。
- ・機材が確保されたので、二見湾で行われていた救難訓練を硫黄島へ移行していく。
- ・9月から12月までの遺骨収集帰還事業のうち、渇水等で中止となった回があった。
- ・平成28年3月22日、硫黄島行政視察を実施する。（委員長ほか4名）

中国サンゴ船

・中国サンゴ船は比較的沈静化してきている。

問

小笠原に裁判所があれば、もっと逮捕ができた。裁判所設置の要望を続けるべきだ。

答

改めて裁判所の設置要望については検討したい。

（一木委員）

航路改善

・7月2日新おがさわら丸就航予定

・7月1日新ははじま丸就航予定

・その他、4月以降のスケジュール案などの報告がありました。

世界自然遺産

問

ミカンコミバエは外来種。研究者はどのように捉えているのか。外来種としても注視すべき。

（一木委員）

答

新たな外来種防止について、研究者の中で議題になっている。アリとともにミカンコミバエも入っている。

問

ネズミ対策の進捗状況は。空中散布はどうなったのか。

（稲垣委員）

答

来年度以降、兄島の殺鼠剤の空中散布を進めていきたい。全島駆除を目指しており、議論をしているが、父島母島の対策までは至っていない。

問

世界自然遺産センターは、環境省が中心となっていくと理解しているのか。

（安藤委員）

答

環境省（国）で整備するという位置づけだが、都や村が協力して運営していく部分について議論をしている。

その他

問

共勝丸のその後の進捗状況は。建設資材の運搬に遅れがみられるときいているが、島内の公共事業をどう考えているのか。

（稲垣委員）

答

その後は特にやり取りをしていない。資材はおがさわら丸で運べるので、まずは業者に工夫してもらうのが一番だと考える。



一つは昨年 6 月にオープンした完熟農園と言う、農園とバイキングスタイルのレストランとお土産屋をくっつけた施設、もう一つは社会福祉法人マコト愛児園と言う幼稚園と保育園をくっつけた施設です。完熟農園は国が推奨している 6 次産業化の拠点として南アルプス市が 8 億円を負担して整備したものだそうです。

マコト愛児園も国が進めている幼保連携型認定こども園に二〇一五年四月に移行した施設だそうです。いづれも国が推奨している新しい施設なわけですが、内容が大きく違っていました。

つまり運営している人達の意識とハートの違いが感じられました。完熟農園は確かに立派な施設ですが、メインのレストランがバイキングであるがために、食べ物を大切に扱う意識がお客様も従業員も薄れていく気がしました。一方マコト愛児園は、昭和 18 年から保育所として開設以来、保育と教育を分けることがおかしなことと提唱しながら地域に根差した保育所を営んでいると言う熱いハートの園長先生を感じる事が出来ました。

その後完熟農園は今年 1 月 25 日に経営がうまくいかず営業停止になってしまったそうです。私にとって初めての視察ではありましたが、地域が抱えるいい部分悪い部分の両方を見ることができ、大変勉強になりました。これも貞頼さんのとりもつ御縁と、感謝してご報告を終わります。

議員レポート

(文責 清水良一)



2015 年 10 月 22 日に小笠原村と友好町村である南アルプス市へ行政視察に行っていました。

南アルプス市との関係は、皆さんもご存知の通り小笠原を発見したと言われている小笠原貞頼さんの出身地がこの地にあると言う事からです。この話がなければ私たちの住む島は小笠原諸島とは呼ばれず日本であつたかも知れない所です。

小笠原神社の氏子になって 30 年近くがたつ私にとって貞頼さんのルーツに触れる初めての機会になりました。南アルプス市は、三〇〇メートル級の山が 10 もあり小笠原とはまったく違った、自然景観の場所で、私たちの行った時にはだいたい色に色づいた柿がいたるところになっていました。

市議会議員との懇親会を終え翌日、市の職員の方の案内で楡形山トレッキングコースや小笠原家ゆかりの地などいろいろな場所を案内していただきました。そんな中で心に残った場所が 2 か所あります。



がんばれ～



皆さんの笑顔の写真を
議会だよりの表紙に
載せませんか？

♪ほかほか
♪クリスマス♪



鬼はそと
福はうち



- ・データでお寄せ下さい。
 - ・お寄せいただいた写真は、写っている方も含めて、掲載許可をいただいているものとします。
- 問合わせ&送付先： 議会事務局 メール： gikai@vill.ogasawara.tokyo.jp

編集後記

皆様に読んでもらえる紙面作りを心がけ、少しずつ変化させています。
読みやすい大きい字に変えたり、また、島の元気な子どもたちや高齢の方など、元気はつらつとした写真にしようと鋭意編集会議で検討を繰り返しています。

来年からもっと見やすくするために、一部カラー化することで、写真が掲載できればと考えています。少しの変化が議会を村民皆様のものとして行くためのツールにできればと考えています。

もうすぐ来年の予算が始まります。課題は多くあると思いますが、無駄を省き、少しでも税金が有効活用していただけるように、議会及び村で頑張りたいとおもっています。

議員、編集委員になって、あっという間の10ヶ月です。まだまだ勉強しなければいけないことが多く大変ですが、皆様にご理解いただける紙面づくりを心掛けていきますので、皆様の御意見も取入れていければと思いますので、ご協力いただければ幸いです。（安藤）

議会だよりの編集委員

一木 重夫
安藤 重行